

令和7年度入試の出題意図・ねらい  
国際関係コース 総合型選抜

全体
国際関係コースでは、北東アジアをはじめとするアジア地域や国際社会と日本との関りやその中で生じる現代的な諸課題について、その背後にある歴史や地域的特性に着目して探求できる人材を求めている。このアドミッション・ポリシーに沿って、近代以降の日本とアジア地域において越境する人びとを扱った文章に基づいて出題した。各設問では、文章中に示された著者の考えや論理、歴史的事実を的確に把握できているか、また、文章中の情報とこれまでの学習内容を結び付けて自己の見解を論述できるか、を確認する問いを設定した。
問1
戸籍と国籍の密接な関係が、国民であるか否かをどのように際立たせ、かつ、国民でないものを「排他」的に扱う仕組みとなっているのかを、本文から読み取れるかを問うた。  国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点 <ul style="list-style-type: none"><li>《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。</li><li>《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。</li><li>《選抜の基本方針》における「論理的な思考力・表現力」を見る。</li></ul>
問2
日本が戦争や国際的情勢変化に応じて、どのように移民を受け入れ・送り出してきたのかについて、本文の内容から歴史的事実を的確に析出できるかを問うた。  国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点 <ul style="list-style-type: none"><li>《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。</li><li>《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。</li><li>《選抜の基本方針》における「論理的な思考力・表現力」を見る。</li></ul>
問3
「日本は移民の国ではない」という言説と、それを支える「日本人」の自画像が今なお社会に根深く残っている理由について自己の見解を記述させることにより、高等学校で

学習し習得した知識を活用しながら自己の考えを根拠立てて思考し表現できるか問うた。評価に際しては、(1) 自己の見解の明確さ、(2) 根拠の明示、(3) 論理的な思考・表現、(4) 結論の妥当性、(5) 記述全体の構成と整合性、(6) 字数の適切な分量、を評価した。

#### 国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点

- 《求める人材》2(1)の「北東アジアをはじめとする国際社会や、グローバル化が進む日本国内の社会が抱える諸課題について、根拠に基づき論理的な筋道を立てて考察し、自らの意見を説得力ある形でまとめ、他者に伝える力」を見る。
- 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》4の「地理歴史・公民の知識を総合的に関連づけて問題関心を養い、自己の体験総体を生かして幅広い視野から日本及び世界で生じている複雑な社会現象を考察しようとする意欲」を見る。
- 《選抜の基本方針》における「社会への問題関心」、「論理的な思考力・表現力」を見る。